



2024年12月12日
第102号

JR東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第3号

「JR東労組横浜地本第29回定期大会」発言 12/12 に基づく申し入れ 2期日目 交渉情報

会社側・1期日目の交渉における発言を不適切と認め謝罪

11月26日に行われた申3号1期日目の団体交渉の席上において、要員がひっ迫する職場の労働実態に対する会社の認識として「会社は筋肉質な体質として足りているという認識。組合の主張は脂身が欲しいという主張だ」という会社発言がありました。2期日目の団体交渉の冒頭、改めて会社の認識を問い、1期日目における本発言が「不適切な発言であり、気分を害したのであれば申し訳ない。双方の食い違いを分かりやすく表現したもので、そこが真意ではなく、イチ説明であった」と謝罪がありました。

この発言以外にも、「要員は限られた経営資源」「年休未消化は本人が申請しないから」「考えればわかるでしょ」といった、現場の組合員・社員に思いを馳せない発言についても指摘し、真摯に交渉に向き合うことを一致した上で、第6項から2期日目の議論を行いました。

<確認事項および特徴的な会社発言>

第6項 JEPSにおける、各BPOサービスセンターの申請様式が統一されない実態と、周知から実施までの準備期間の短さに起因する、申請者とJEPS担当者の苦労について改善を求める項目

- ・出向の意義は「さまざま持っている知識・技能をグループ会社等に伝え、社員のレベルアップにつなげるほか、働き方の多様化が求められるために行うもの」。**確認** 今後の出向者数の見通しについては何とも言えない。
- ・出向者に対するフォローは蔑ろにはしていない。横浜支社では電話や来所による対応の他、全員を対象に年1回の面談を行っている。**確認** 出向先の上司や人事担当部署とも面談を行っている認識である。
- ・BPOの通勤状況調査の様式がFormsに変わったが、旧様式で提出した方へも丁寧に対応したと聞いている。

第7項 2024年3月ダイヤ改正において「これまでにない発想で行路の見直し」を行ったことによる乗務効率と労働強化による疲労度の悪化と、複数線区を同一行路内で乗務する混み行路についての項目

- ・行路作成は列車ダイヤに左右されるが「働きやすさ」も考慮に入れている。現場の声を取り入れて行っている。**確認**
- ・「安全」は譲れないもので経営のトッププライオリティ。乗務割交番作成規程に則って行路作成していく。**確認**
- ・23時退勤は規程上の問題はない。誰かが乗らないとならない。前泊・後泊が必要になるという声は把握している。
- ・混み行路について、両数の違いや当直の操配の苦労は認識している。基本動作により安全安定輸送してもらいたい。

第8項 乗務員の眠気による事象を防ぐため「融合と連携」が拡大しても、ゆとりある睡眠時間を求める項目

- ・眠気対策として睡眠チェアを導入したり、訓練で取り上げたりしている。
- ・眠気に関わる事象はあると認識している。「融合と連携」による指示業務と疲労度はイコールの認識はない。**確認**
- ・指導担当による添乗も重要なものと認識している。添乗できるよう業務量の平準化が必要との認識はある。**確認**

第9項 ワンマン運転の拡大について、お客さまのニーズの認識と、車掌の異動の考え方を求める項目

- ・人にしかできないことは人が担い、機械やシステムでできるものは置き換えていくという考え方は基本である。**確認**
- ・ワンマン化は会社の判断である。インフラ企業として地域の皆さまから期待され、企業として維持するために必要なことである。お客さまにとっても大きな変化であるのでダイヤ改正よりも前に示してきた。**確認**
- ・ワンマン化に伴う車掌の異動は現業機関だけでなく出向もあり得る。**確認** 双方向でコミュニケーションが必要。
- ・異動に関して組合加入は全く関係ない。**確認** 年代に応じた異動先の振り分けや括りという考え方はない。**確認**
- ・お客さま流動がコロナ禍前よりも大きく増えたような場合、判断すべきことは判断する。

第10項 キャリアプラン・職場実態を踏まえないジョブローテーション異動の改善を求める項目

- ・簡易苦情処理の件数の多さの議論はなじまない。社員の声として上がった件数という認識である。
- ・納得感を持ってもらうためのフォローを支社としても行っていく。**確認** 異動に関して組合加入は全く関係ない。**確認**

第11項 ワンマン運転開始後の負担増や事象に対して、作業にゆとりある行路・列車ダイヤを求める項目

- ・ワンマン化により作業量が増えている認識はある。事象に対する原因究明と対策を行ってきた。**確認**
- ・作業時間については実際に測定し、添乗した中でも足りている認識。大きな遅れの認識はない。**確認**

大会発言に基づく全項目の団体交渉が終了しました